

### 6-13 2009年8月11日駿河湾の地震： $\Delta$ CFFによる東海地震に与える影響評価 Suruga-bay earthquake on August 11, 2009: Coulomb Stress Change for the assumed major Tokai event

防災科学技術研究所  
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

2009年8月11日に駿河湾の深さ23kmでM6.5の地震が発生した。本震は、フィリピン海プレート境界上面よりも約10km深いところで発生しており、中央防災会議が2001年に見直した東海地震の想定震源域のごく近傍に位置している。そこで、本震の断層運動が東海地震の震源域に与える影響を、クーロン応力変化（ $\Delta$ CFF）によって評価した。

本震の震源モデルは次の2通りを仮定した。

- (1) 防災科学技術研究所 F-net の発震機構解を参考にした点震源モデル
- (2) 近地強震記録を用いた波形インバージョンによって推定された有限断層モデル<sup>1)</sup>

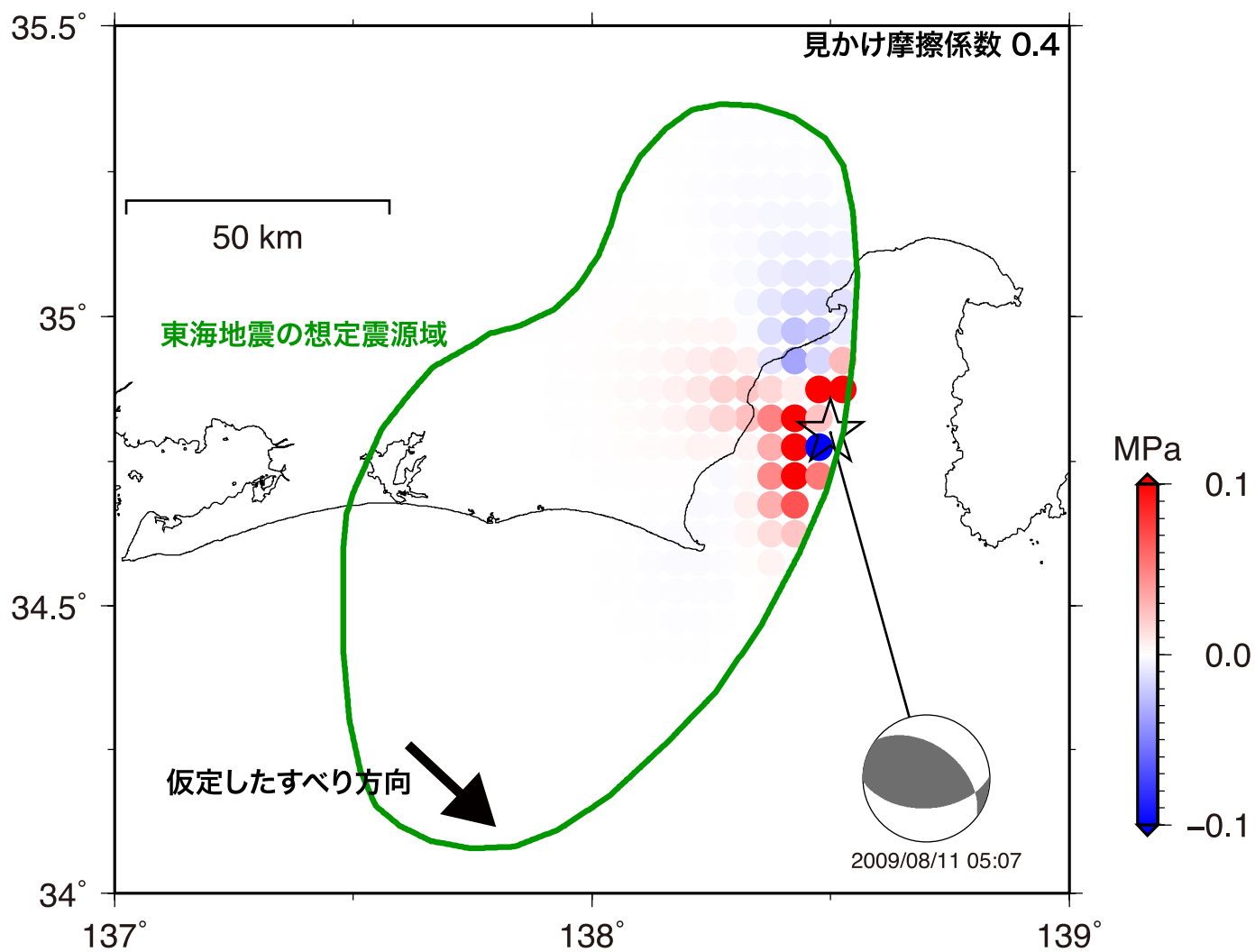
$\Delta$ CFF の対象となる断層運動は、東海地震の想定震源域におけるプレートの相対運動方向と逆向きとした。

第1図は(1)の震源モデルによる $\Delta$ CFF分布、第2図は(2)のモデルによる $\Delta$ CFF分布を示す。両者とも駿河湾の震源域から西側に $\Delta$ CFF正の領域が広がるパターンを示している。(2)の震源モデルは、震源から西方向への震源断層の広がりを考慮しているため、上述の正の領域も(1)の場合と比べてより深部へと広がっている。静岡県藤枝付近で本震後に発生した地震活動域<sup>2)</sup>は、この領域にあたる。

(木村武志・エネスクボグダン)  
Takeshi Kimura and Bogdan Enescu

#### 参考文献

- 1) 鈴木亘・青井真・関口春子、近地強震記録による2009年8月11日駿河湾の地震の震源過程、日本地震学会2009年度秋季大会講演予稿集、A11-06, 2009.
- 2) 汐見勝彦、2009年8月11日駿河湾の地震：地震活動の概要、本会報、2009.



第 1 図 点震源モデルを用いた場合の、2009 年駿河湾の地震による東海地震の想定震源域に対する  $\Delta CFF$  の分布.

Fig. 1 Distribution of  $\Delta CFF$  in the assumed source area of the major Tokai earthquake due to the 2009 Suruga-bay earthquake (point source model).

